

---

---

2010 年度（平成 22 年度）

# 事業報告書



平成 23 年 5 月 20 日

学校法人 玉手山学園

---

---

## I. はじめに

### 第1期(2008~2012) 学園中長期計画推進中

#### 関西福祉科学大学3学部5学科、関西女子短期大学4学科体制へ

学園はまもなく 70 周年を迎えます。一層、社会に愛され必要とされる学園でありたいと願い第1期学園中長期計画を推進しています。新しい教学組織開設に向けて教職員の尽力により今春、大学に**保健医療学部リハビリテーション学科**、短期大学に**医療秘書学科・医療秘書学専攻科**が開設され、学園は教育情熱に燃え、新たな一步を踏み出しました。まもなく新校舎(大学4号館)も竣工(2011年5月)いたします。2011年度は、次のステージ、第2期(2013~2017)学園中長期計画を策定いたします。本学園はこれまで約**6万人もの卒業生**を送り出してきました。多くの卒業生、そして未来の卒業生たちのために、**いつまでも誇れる母校**でありたいと願っています。それが教育人、私学人の責務です。

#### 誇れる卒業生、教育人としてのやりがい

今春、**大学の卒業1期生**の職場を訪問しました。彼はある特別養護老人ホームの施設長として責任ある立場にあります。その施設は約40人の入所者、ほとんど認知症の方々です。彼との話で次の3点が強く印象に残りました。

1. 入所者に対し丁寧な言葉で接するよう、職員に強く指導している。
2. 入所者が面会に来た近親者すら分からなくなっても、それでも“面会の意義は変わらず大きい”、それをもっと的確に伝えたい。
3. 施設の1階にある和室は入所者が亡くなったときの「**霊安室**」、人生の最後のときは畳の上で迎えてほしいと願っている。

私は彼に言いました。「あなたは、人生の最後まで**人の幸せに寄与する**という素晴らしい仕事をしている、あなたが**本学の卒業生**であることを**誇りに思う**」と。そんな卒業生を社会に送り出すという仕事に、私たちも教育人として、やりがいと喜びを実感しています。

平成22年度も、「**社会に貢献し必要とされる魅力ある学園を目指す**」という運営基本方針のもと、各校園の教育目的・目標、事業計画の推進に**総力を結集**してまいりました。学園の総力を結集させて遂行した**平成22年度の教育事業**を以下にご報告いたします。

平成23年5月20日

理事長 江端源治

## 建学の精神「感恩」

人間のおよび得ない存在への畏敬の念と、生かされてある不思議を原点に、人はみな有形無形の数々の恩恵を享受し今日の自分がある。この偉大なはからいに目覚め、深い感動と感謝の念から発する情熱をもって、人の幸せを願い行動するとき、われわれは社会に貢献することができる。

## 学園の使命

建学の精神「感恩」を体し、人間の絆に目覚め、感動と感謝の念から発する情熱をもって人の幸せを願い、社会に貢献し得る人材を育成し、幸福・平和で豊かな社会の構築に寄与する。

学園の各校園はこの崇高な使命を全うするため、それぞれの教育目的・理念のもと具体的な教育目標を掲げ、その達成に総力を結集する。

## 学園職員の責務

教育人として

- ・ 人類の未来を拓く「知」の継承・伝達と創造・発展に努め、次代を担う有為な後継者を育成する
- ・ 「教育力の向上」に努め、「良質の教育サービス提供」に徹する
- ・ 学生、生徒、園児の持てる力をひきだし、伸ばし育てる
- ・ 学園に学ぶものに「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感をもたらす
- ・ 教育人としての自覚のもと、喜びと誇りを持ってその責務・使命の遂行に情熱を燃やし、自己の能力および人格の向上に努める

組織人、私学人として

- ・ 学園および各校園の使命、経営方針、教育目的・目標の理解・堅持に努め、その達成に貢献する
- ・ 組織人としての自覚、連携・協調を重んじ自己の責務・役割を果たす

## 平成 22 年度 学園運営基本方針

常に魅力ある学園、社会に貢献し必要とされる学園を目指す

～確かな「教育力」と「情熱」が誇り～

1. 学園の使命、教育目的の共有・実践  
建学の精神「感恩」の定着推進  
各校園の教育目的・目標の再確認、共有、実践
2. 学生・生徒・園児を伸ばし育てる ～満足度関西一～  
愛情、責任をもって関わり鍛え  
「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感につなぐ
3. 「教育力」の向上、「学園教職員魂」の高揚  
教職員の資質・能力、人格の向上  
教育に情熱のない教職員に接しられる学生は不幸である
4. こころ豊かな学風の確立、学校愛・母校愛の醸成  
笑顔、あいさつ、心優しいマナーの推進
5. 「学び」を支える学園環境、施設・設備等の充実
6. 継承・発展と改革を支える強く健全な財政基盤の確立・堅持

## II. 法人の概要

### 1. 沿革

年月日	沿革
昭和17年 3月	財団法人山田学園認可 玉手山高等女学校 設置認可
昭和22年 4月	玉手山中学校 設置 玉手山女子専門学校 設置
昭和23年 4月	学制改革により玉手山高等学校と改称
昭和25年 3月	玉手山女子専門学校 廃止
昭和26年 3月	学校法人玉手山学園に組織変更
昭和40年 3月	玉手山中学校 廃止
昭和40年 4月	玉手山女子短期大学 家政科・保育科 開設 玉手山女子短期大学附属幼稚園 開設
昭和41年 10月	玉手山女子短期大学を関西女子短期大学に改称 玉手山女子短期大学附属幼稚園を関西女子短期大学附属幼稚園に改称
昭和42年 4月	関西女子短期大学 保健科 設置
昭和45年 4月	関西女子短期大学附属歯科技工士学院 開設 (昭和56年関西女子医療技術専門学校へ移行)
昭和49年 3月	関西女子短期大学 家政科 廃止
昭和49年 4月	玉手山高等学校を関西女子短期大学附属高等学校に改称
昭和56年 4月	関西女子短期大学附属歯科技工士学院を改組の上、関西女子医療技術専門学校医療秘書学科開設
平成4年 4月	関西女子医療技術専門学校 ビジネス秘書学科 設置
平成7年 3月	関西女子医療技術専門学校 歯科技工士学科 廃止
平成7年 4月	関西女子医療技術専門学校 理学療法学科 設置
平成8年 4月	関西女子医療技術専門学校 作業療法学科・介護福祉学科 設置 関西女子医療技術専門学校 医療秘書学科とビジネス秘書学科を統合し、医療ビジネス学科に改称
平成9年 4月	関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科 開設
平成10年 4月	関西女子短期大学附属高等学校を関西福祉科学大学高等学校に改称 関西女子医療技術専門学校を関西医療技術専門学校に改称し、男女共学実施
平成11年 4月	関西福祉科学大学高等学校 特別進学コースのみ男女共学実施
平成13年 4月	関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 設置 関西女子短期大学 福祉栄養学科 設置 関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 設置
平成15年 4月	関西福祉科学大学 社会福祉学部臨床心理学科 設置 健康福祉学部健康科学科・福祉栄養学科 設置 関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 (後期課程) 設置 社会福祉学研究科心理臨床学専攻 設置
平成16年 3月	関西女子短期大学 福祉栄養学科 廃止
平成17年 4月	関西女子短期大学 歯科衛生学科 (3年制) 設置 関西福祉科学大学高等学校 特別進学Ⅰコース、特別進学Ⅱコース、総合進学コースの3コース制導入
平成18年 4月	関西医療技術専門学校 医療ビジネス学科を診療情報管理学科・診療情報管理専攻科に改組
平成21年 3月	関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 廃止
平成22年 4月	関西福祉科学大学 特別支援教育専攻科 設置
平成23年 3月	関西医療技術専門学校 診療情報管理専攻科 廃止
平成23年 4月	関西福祉科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻 設置 関西女子短期大学 医療秘書学科・医療秘書学専攻科 設置

## 2. 設置する学校

学校名	学部・学科・専攻等		開設年度
関西福祉科学大学	社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻（博士前期課程）	平成13年
		臨床福祉学専攻（博士後期課程）	平成15年
		心理臨床学専攻（修士課程）	平成15年
	社会福祉学部	社会福祉学科	平成9年
		臨床心理学科	平成15年
	健康福祉学部	健康科学学科	平成15年
福祉栄養学科		平成15年	
	特別支援教育専攻科	平成22年	
関西女子短期大学	保育科		昭和40年
	保健科		昭和42年
	歯科衛生学科		平成17年
関西福祉科学大学高等学校	全日制課程普通科		昭和17年
関西女子短期大学附属幼稚園			昭和40年
関西医療技術専門学校	医療専門課程	理学療法学科	平成7年
		作業療法学科	平成8年
	社会福祉専門課程	介護福祉学科	平成8年
	商業実務専門課程	診療情報管理学科	平成18年
		診療情報管理専攻科	平成18年

## 3. 学生・生徒・園児数の状況

< 関西福祉科学大学 >

(単位：名)

研究科・学部・学科・専攻科		入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	H22年度在籍者数(現員)				H21年度 卒業生数
					H22.5.1				
					1年生	2年生	3年生	4年生	
社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻(博士前期課程)	20	0	40	12	11			7
	臨床福祉学専攻(博士後期課程)	3	0	9	4	4	2		1
	心理臨床学専攻(修士課程)	10	0	20	13	14			14
大学院 計		33	0	69	29	29	2		22
					60				
社会福祉学部	社会福祉学科	240	40	1,040	192	201	279	333	356
	臨床心理学科	100	20	440	74	109	129	138	137
計		340	60	1,480	266	310	408	471	493
					1,455				
健康福祉学部	健康科学学科	90	10	380	68	70	86	118	104
	福祉栄養学科	80	5	330	89	73	89	90	73
計		170	15	710	157	143	175	208	177
					683				
大学 計		510	75	2,190	2,138				670
特別支援教育専攻科		40	0	40	11				—

(「平成22年度学校基本調査(平成22年5月1日現在)」より)

< 関西女子短期大学 >

(単位：名)

学科	入学定員	収容定員	H22年度在籍者数(現員)			H21年度 卒業生数
			H22.5.1			
			1年生	2年生	3年生	
保育科	130	260	92	89		111
保健科	70	140	89	81		101
歯科衛生学科	100	300	88	98	98	99
短大 計	300	700	269	268	98	311
			635			

(「平成22年度学校基本調査(平成22年5月1日現在)」より)

< 関西福祉科学大学高等学校 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	H22年度在籍者数(現員)			H21年度卒業生数
			H22.5.1			
			1年生	2年生	3年生	
関西福祉科学大学高等学校	240	720	185	188	179	143
高校 計	240	720	552			143

※入学定員は入学募集定員にて示す (学則上の入学定員 470 名)

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	H22年度在園児数(現員)				H21年度卒業生数
			H22.5.1				
			最年少	年少	年中	年長	
関西女子短期大学附属幼稚園	—	495	3	123	125	157	150
幼稚園 計	—	495	408				150

※最年少は満 3 歳児クラスを示す

< 関西医療技術専門学校 >

(単位：名)

課程・学科・専攻科		入学定員	収容定員	H22年度在籍者数(現員)			H21年度卒業生数
				H22.5.1			
				1年生	2年生	3年生	
医療専門課程	理学療法学科	40	80	40	44	38	27
	作業療法学科	40	80	44	40	20	26
社会福祉専門課程	介護福祉学科	40	40	24	16		19
商業実務専門課程	診療情報管理学科	60	60	10	7		7
	診療情報管理専攻科	40	40	3			2
専門学校 計		220	300	286			81

4. 役員・教職員の人数

(1) 役員 (単位：名)

役員、評議員	定員数	現員
理事	8～10	9
監事	2～3	2
評議員	21～25	24

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

(2) 教職員数 (単位：名)

学校名	教員		職員	
	専任(本務)	兼務	専任(本務)	兼務
関西福祉科学大学	92	92	63	46
関西女子短期大学	30	57		
関西福祉科学大学高等学校	44	23	6	9
関西女子短期大学附属幼稚園	20	6	5	3
関西医療技術専門学校	22	40	9	2
法人	0	0	1	1
法人本部	0	0	21	9
合計	208	218	105	70

※兼務職員数は学生アルバイトを除いた人数にて示す (平成 22 年 5 月 1 日現在)

[専任教員内訳]

< 関西福祉科学大学 >

(単位:名)

学部・学科		大学設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
		専任教員 (うち教授)	大学全体 (うち教授)	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
社会福祉学部	社会福祉学科	16 (8)	23 (12)	14	2	3	11	1	11	0	1	0	0	18	25
	臨床心理学科	10 (5)		6	1	1	2	0	4	0	0	0	0	7	7
健康福祉学部	健康科学科	10 (5)		8	2	1	2	1	4	0	0	0	0	10	8
	福祉栄養学科	10 (5)		8	1	4	3	0	1	0	0	0	0	12	5
合 計		46 (23)	23 (12)	36	6	9	18	2	20	0	1	0	0	47	45
		69 (35)													

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

< 関西女子短期大学 >

(単位:名)

学科	短大設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計		
	専任教員 (うち教授)	短大全体 (うち教授)	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保育科	10 (3)	5 (2)	2	2	1	4	0	1	0	0	0	0	3	7	
保健科	4 (2)		4	1	0	3	0	1	0	0	0	0	4	5	
歯科衛生学科	6 (2)		1	3	0	2	0	2	0	0	0	3	1	10	
合 計		20 (7)	5 (2)	7	6	1	9	0	4	0	0	0	3	8	22
		25 (9)													

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

< 関西福祉科学大学高等学校 >

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

< 関西医療技術専門学校 >

(単位:名)

学校名	専任教員数		計	
	男	女	男	女
関西福祉科学大学高等学校	31	13	31	13
関西女子短期大学附属幼稚園	4	16	4	16
関西医療技術専門学校	10	12	10	12

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

### Ⅲ. 事業の概要（主な事業内容および進捗状況）

#### 関西福祉科学大学

1. **2010版 第1期(2008～2012)大学「中長期計画」の実践・遂行**  
第1期大学「中長期計画」を具現化すべく、将来計画委員会、経営教学協議会等での検討・協議を行いながら計画を実施した。なお、具体的取組内容については、以下2～8を参照。
2. **大学院1研究科1専攻(M)増設(H23.4)準備**
  - ・「健康福祉学研究科設置認可申請書」を5月27日付で文部科学省大学設置室に提出した。
  - ・8月3日の文部科学省審査意見を受け、より一層充実した教育研究体制を整えるため、開設を平成24年度以降に延期することを決定した。
3. **保健医療学部(仮称)の開設(H23.4)準備**
  - ・「保健医療学部設置認可申請書」を5月27日付で文部科学省大学設置室に提出した。審査意見に基づき9月2日に補正申請書、11月17日に再補正申請書を提出し、12月24日付で文部科学省より設置認可された。
  - ・「理学療法士及び作業療法士学校指定申請書」を10月7日付で大阪府私学・大学課経由で文部科学省医学教育課に提出した。11月25日に申請書の一部差し替えを行い、1月31日付で指定された。
  - ・10月24日に「人にやさしいリハビリテーション」と題した保健医療学部開設記念フォーラムを開催した。赤星憲広氏（野球解説者）、日本作業療法士協会会長及び日本理学療法士協会副会長による講演や叶和貴子氏（女優）と保健医療学部長による対談を実施した。
4. **臨床心理学科に保育士養成課程開設(H23.4)準備**
  - ・「指定保育士養成施設設置計画書」に対する近畿厚生局のヒアリングを6月22日に実施した。9月7日に申請書を提出し、3月8日付で養成施設として指定された。
5. **「大学新校舎」建築**
  - ・3月竣工予定であったが、工事の遅延により完成を平成23年5月末に延期した。
  - ・新校舎完成までの期間に支障なく教育を行うため、既存校舎の使用計画を策定し対応した。
6. **4学科「コース制度(H22.4～)」の推進**
  - ・「基礎演習Ⅰ」でコース分けに係る説明・指導を行ったほか、学生便覧に各コースの推奨科目を明示した。
  - ・秋学期よりコース分けを開始した。
7. **特別支援教育専攻科(H22.4 開設)の推進**
  - ・11名の入学者のうち、8名が特別支援学校教諭一種ないし二種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）の申請資格を取得し、計10名が修了した。
  - ・特別支援教育の啓発及び学内進学者数の増加を狙い、平成23年度より大学院及び学部において特別支援教育の概論科目の開講を決定した。
8. **第2期(2013～2017)大学「中長期計画」の策定開始**
  - ・大学・短大の主要メンバーからの中長期計画項目案を7月に取りまとめ（提出68件）、将来計画委員会や意見交換会（4回実施）、学科会議で協議した。
  - ・中長期計画の大学・短大におけるあり方を含めた大学経営の枠組み概念の検討を深めるため、当初の平成23年3月策定予定を平成23年9月に変更した。



1. **2010 版 第 1 期(2008～2012)短大「中長期計画」の実践遂行**

第 1 期短大「中長期計画」を具現化すべく、将来計画委員会、経営教学協議会等での検討・協議を行いながら計画を実施した。なお、具体的取組内容については、以下 2～4 を参照。
2. **医療秘書学科、医療秘書学専攻科開設(H23.4)準備**
  - ・「医療秘書学科設置届出書」を 4 月 28 日付で文部科学省大学設置室に提出した。6 月 29 日の文部科学省ホームページ上での公表をもって設置が認められた。
  - ・医療秘書学専攻科の設置に係る学則変更を、6 月 30 日付で文部科学省大学振興課短期大学係に届出した。
  - ・「介護福祉士学校設置計画書」に対する近畿厚生局によるヒアリングを 6 月 21 日に実施した。一部計画書の変更を行い、7 月 29 日付で「介護福祉士学校設置申請書」を提出した。12 月 20 日の近畿厚生局による実地調査を経て、3 月 31 日付で指定された。
3. **保育科、コース制の変更(H23.4)、実践準備**
  - ・保育科の定員変更を医療秘書学科の届出時に同時届出した。(130 名→100 名)
  - ・保育科会議において 2 コース制(総合福祉コース・臨床保育コース)に向けた各コースの教育目的・目標を策定した。
  - ・9 月 30 日付けで、大阪府経由で近畿厚生局にカリキュラムの変更を届出した。
  - ・411 講義室を保育実習室として改修した。
4. **保健科、養護・保健コース再構築の検討**

平成 23 年度からの医療秘書コース独立に伴う保健科の新体制に備えるため、以下の項目を実施した。

  - ・保健科の定員変更を医療秘書学科の届出時に同時届出した。(70 名→40 名)
  - ・保健科教員研究室の移設と実習室等主要施設の改修・整備をした。
  - ・入学者確保施策として、社会人入学者を対象とした奨学金制度新設及び HP の充実を図った。
  - ・教育課程充実施策として、学部卒入学者対象の平成 23 年度からのアドバンスド科目開講決定、及び特別講義再編成による一般就職希望者への指導充実を図った。
  - ・卒業後教育と同窓会組織の活性化施策として、同窓会の開催と私学就職者の連絡会発足の準備を行った。
5. **教育開発支援センターでの入学前教育の立案・実施**
  - ・基礎能力向上を目的とした入学前教育プログラムとして、学科共通で①高校の担任への感謝の手紙、②論理的文章学習、③国語の携帯学習を実施した。
  - ・学科別で、保育科ではピアノの個人レッスン、保健科では読書感想文及び塗り絵の課題、医療秘書学科では課題プリント配付、歯科衛生学科では塗り絵の課題を実施した。
  - ・各学科で課題を添削し、入学後、学生へのフィードバックを予定している。
6. **キャリア教育の充実 計画立案と実行**

後援会の助成を受け、各学科において以下のキャリア教育を実施した。

  - ・保育科では、「公立幼稚園・保育士採用試験対策講座」を 20 回開講し、現役 1 名が公立保育所に合格した。
  - ・保健科養護・保健コースでは、「教員採用試験対策講座」を 10 回開講し、2 名が専任の養護教諭に合格した。
  - ・保健科医療秘書コースでは、「診療情報請求事務能力認定試験対策講座」を 5 回開催した。
  - ・歯科衛生学科では、「歯科衛生士実践講座」を 10 回開講し、83 名が歯科衛生士国家試験に合格した。

## 7. リカレント教育の充実

- ・保育科では、夏期セミナーを8月8日に開催し、25名が参加した。
- ・保健科養護・保健コースでは、養護教諭教員免許更新講習（8月6日～11日、37名受講）、0-catでの卒後教育（計13回、220名参加）、卒業生による研修会（2月12日、86名参加）を実施した。
- ・保健科医療秘書コースでは、診療報酬請求事務能力認定試験の研修会を企画したが、卒業生の参加希望者がなかったため実施には至らなかった。
- ・歯科衛生学科では、研修会（11月7日、181名参加）及びリフレッシュ講座（計4回、延べ77名参加）を開催した。

## 8. 地域支援交流の一層の充実

- ・保育科では、子育て支援、保育のリカレント教育、音楽を通じた豊かな情操教育、緊急時の対応教育などの「保育講座」を5月～7月にかけて実施した。
- ・保健科では、地域と連携した健康教育、アニマルとの豊かな生活支援教育などを実施した。
- ・歯科衛生学科では、柏原市との連携プログラム（ほっとステーションとの連携）、高齢者施設等における介護支援教育、子どもの歯磨き支援等のボランティア活動を実施した。

## 関西福祉科学大学高等学校

### 1. 教育改革の推進

#### (1) 教職員の意識改革（スクラップアンドビルド）

生徒と教職員が共通した意識を持って取り組む目標を、基本に立ちかえり次の5項目『1. 授業を大切にす 2. 時間を守る 3. 笑顔で挨拶 4. 「ありがとう」の心を大切に 5. 課外活動を活発に』とし、「まずは教職員から」の意識改革とともに実践し、1年を経過した年度末には成果が少しずつ現れ、周りからも少しずつではあるが評価されるようになってきた。また平成25年度の教育課程の変更に合わせた新コース・カリキュラムの検討チームを発足し改革に向け検討を始めた。

#### (2) 3コース制の推進（コース制への更なるシフト）

3コース制を推進する中で、特進Ⅰコースは昨年度以上の進学結果を上げるべく努力し、成果も残せた。また、特進Ⅱコース、総合進学コースにおいては学外の進学実績をあげるべく学内連携をより密にした結果、学内への進学者の増加につながった。

### 2. 教育力の向上

#### (1) 授業アンケートの実施と活用

授業アンケートに基づき各教科での取り組みも積極的に行われるようになり、個人レベルやカリキュラム全般に渡る改善点が発見され、その推進に努めた。

#### (2) 高校生活満足度調査の実施と活用

2学期に実施した満足度調査に基づき、生徒の多くから出ている制服や持ち物（鞆など）に関する意見に対応するため、検討チームを発足させ新しい制服と持ち物（鞆など）の制定に向け着手した。

#### (3) 教員研修の実施

私学人研での研修会を始め、各教科の教育研修会に積極的に参加し、校内での授業研究を実施した。

### 3. 生徒の生活・学習について重点指導

生活指導では基本的な生活の習慣を徹底するため、毎日の登下校指導で身だしなみや挨拶指導を

実施し、定期テスト中は、国分駅や通学路での指導を徹底した。遅刻の多い生徒に対して早朝登校の指導を実施した結果、遅刻数の大きな減少につながった。また、各学期1回の風紀検査を計4回に増やし、よりきめ細かく対応した。

#### 4. 学校自己点検評価の実施

教職員とPTA役員による学校自己点検評価を実施し、その結果を教職員・PTA役員会で共有した。結果としては、殆どの項目で肯定的な評価がなされ、その数も昨年度より殆どの項目でポイント増となった。

#### 5. 生徒募集活動の徹底

今年の学校説明会、体験学習での重点事項を「元気さのアピール」とし、参加者全員に「元気な明るい学校、元気な先生と生徒のいる学校」を印象づけられるように実施し、結果として概ね外部での評価も目的としていたものとなった。各種奨学金の充実をアピールし、大阪府の施策とも相まって入学者数214名と増加（昨年比15.7%増）したが、定員240名には届かなかった。

#### 6. 学校行事の見直し

生徒会行事の見直しが図られ、平成23年度に新しい行事の追加と、学園祭の実施日時の変更などを取り入れた。

#### 7. 教員評価制度の定着

「人事評価制度」も教職員に定着してきており、より充実した教育力のアップにつなげるため、管理職の細かな打ち合わせによる情報共有に努めた。必要に応じ担当者を交えた打ち合わせを行い、教職員間のコミュニケーションの充実に取り組んだ。

### 関西女子短期大学附属幼稚園

#### 1. 園児数増加を目指して！魅力ある幼稚園運営にむけて！

- ・高い保育力、経験豊かな人間力、充実した施設・自然一杯の環境力、三つの力の総合力を発揮する事を魅力と定め、常に全教職員の意識を高め実践してきた。
- ・建学の精神「感恩」を体し、保育方針として創造性、表現力の育成、体力向上、躰教育に重点をおき、具体的な保育目標を決め実践してきた。
- ・満3歳児クラスの促進、広報活動の充実等、広く園の状況を知らせ、事前に入園希望者の増を図る運営を重点としてきた。

#### 2. 満3歳児クラスの促進を図る

- ・「親子であそぼう！」子育て支援の充実を図り、地道な活動が功を奏し、満3歳児入園の希望者が増加。1クラス20名を超える状況となり、次年度は2クラス制にする事を決め対処した。

#### 3. 教員の保育力向上

- ・新しい保育への取り組み、合同保育のあり方、保育参観や保育参加における保育についても常に対処し実践してきた。

#### 4. 効果的な広報活動の充実

- ・香芝市への広報活動の検討を行った結果、平成23年度看板設置や園児募集ポスターの掲示、スクールバス運行コースの見直し等により、園児獲得に向けた活動を実施予定である。
- ・HPの充実（適宜更新し、最新ニュースの配信）や新聞広告により、園での行事、観劇会、園庭解放等の情報を知らせたことで、一般の親子も多数参加してもらえた。

## 5. 園外、園内での教員研修の充実

- ・園として、対外的な研修会へ参加できる環境を作ったことで、全教員が積極的に参加し、貴重な体験や多くの経験を積み、学ぶことができた。
- ・大阪府私立幼稚園連盟主催教育研究大会に於いて実践発表を行い本園の名を高めた。
- ・園内研修として、例年行っている全教員による研究保育を実施、反省会において徹底研究をし、保育力の向上を図った。

## 6. 学園、短大、大学、高校との交流により保育の充実を図る

- ・短大保育科と共同研究の実践中であり、研鑽に励んでいる。
- ・保育科1回生全員の保育実習（観察実習）の受け入れを始め、保護者、大学、高校との交流を実践している。園児達も幅広い経験をする事ができ、保育環境の充実を図っている。

## 関西医療技術専門学校

### 1. 2010版 第1期(2008～2012)専門学校「中長期計画」達成

関西福祉科学大学・関西女子短期大学の新学部・新学科設置構想に関する文部科学省への申請業務及び認可後の学生募集業務について、これまでの経験を活用し、全校あげて協力した。この構想の実現にともない、専門学校の各学科の平成23年度学生募集を停止することとし、それに関連する学則変更届を大阪府私学・大学課と近畿厚生局へ提出し、受理された。今後も、平成22年度入学生が卒業するまでの行政への書類申請については、計画的かつ正確な手続きを心がけ、遺漏なき処理を行う。

### 2. 教育力の向上

教育力の向上のために、全教職員を対象として平成19年度から開始した学内勉強会を5回開催し、今年度は主として平成22年度入学生を卒業させるまでの教育方法を検討した。また、学術大会（年間1回開催）を今年度も予定の通り実施できた。なお、教職員自ら自己研鑽に励み、学会・研修会等に積極的に参加し、学会発表・講演等57件、掲載論文等28篇を発信できた。

### 3. 授業評価アンケート・学生生活満足度調査の実施と活用

授業力の更なる向上を期して「授業評価アンケート」を行い、集計結果を各講師に報告した。また、教育環境改善に役立てるために「学生生活満足度調査」を行って、その集計結果を検討し、改善を要する事項については関係方面に改善方を働きかけた。

## 法人本部

### 1. 2010版 第1期(2008～2012)学園「中長期計画」の推進

学園の発展的継続を期して、平成20年11月に策定した「第1期(2008～2012)学園中長期計画～学園70周年記念事業～」について、平成22年度は修正改良を加え、「2010版 第1期(2008～2012)学園中長期計画～学園70周年記念事業～」として、計画実現に向け、各校園と連携し、実直に推進した。

### 2. 「学園運営目標」の定着(PDCA)

第1期(2008～2012)学園中長期計画、平成22年度事業計画を各校園別に「学園運営目標」として具体化し、進捗フォロー表を用いて、PDCAサイクルの定着を目指した。

運営目標進捗フォロー表の活用について、各校園へ個別に説明を実施し、各校園のPDCA定着を支援した。

### 3. 学園経営体質の強化

学園経営体質強化の取組みとして、中期資金計画の策定、適正予算の執行とフォロー、自己評価システムの定着－経営指標の活用、業務改善・業務効率化の推進を実施した。

中期資金計画の策定については、新学部設置に伴う平成 22～26 年度予算を作成した。さらに、それをベースに資金運用計画を策定中である。

適正予算の執行とフォローについては、稟議受付時の確認徹底、事業予算執行時の見積書チェック厳格化等により、予算の適正執行を図った。

自己評価システムの定着－経営指標の活用については、決算終了後、財務比率表を作成し、経営課題の抽出に活用した。

業務改善・業務効率化の推進については、法人本部各部署において、現状業務の見直しと効率化を推進した。

### 4. 大学新学部、短大新学科等の設置

第 1 期（2008～2012）学園中長期計画として、関西福祉科学大学に保健医療学部、関西女子短期大学に医療秘書学科・医療秘書学専攻科の平成 23 年 4 月開設に伴う設置認可申請及び寄附行為変更認可申請業務を行った。さらに、関西福祉科学大学臨床心理学科への保育士養成課程設置を関係各部と協働し推進した。

また、保健医療学部の開設に伴う新校舎（大学 4 号館）の建築について、建築委員会を中心に準備を進め、平成 23 年 5 月竣工予定となった。

### 5. 教育環境の整備

教育環境の整備として、既存施設の有効活用、学園内建物の転共用、芝山・香芝グラウンドの有効活用を検討し、専門学校校舎を一部短大校舎として使用するため、改修工事を実施した。

### 6. 新規教育課程のリリース

学生募集停止中の関西医療技術専門学校の今後の運営に関し、専門学校・各種学校の関係法令・設置基準等の調査を行った。

### 7. 学園 70 周年記念行事の推進

記念行事委員会を 14 回開催し、記念行事の計画立案を推進中である。また、寄付金募集事業、講演会、祝賀会、広報宣伝活動、記念誌作成については、各小委員会を編成し、実施に向けた検討、計画立案を実施中である。

### 8. 環境問題への取組み

平成 21 年度に発足した省エネチームの活動を本格化した。省エネチームの活動として、全学園内にて省エネ標語の募集を平成 22 年 11 月 22 日から 12 月 24 日まで実施した結果、889 件の応募があり、入賞作品 9 篇が選出された。

### 9. 老朽化物件対策(耐震対策含む)

有識者を交えての意見交換会を実施した。平成 23 年度事業計画「教育環境整備事業」として、『キャンパスビジョン検討委員会（仮称）』を設置し、学園施設の中長期ビジョンを策定する中で、老朽化物件対策についても引き続き検討する。

### 10. 第 2 期(2013～2017)学園「中長期計画」の策定開始

平成 22 年 6 月 11 日所属長会において、第 2 期（2013～2017）学園中長期計画の策定に向け、各所属の事業原案の策定を開始することを確認した。平成 23 年 9 月理事会での審議を目指し、現在、原案策定中である。

## IV. 財務の概要（平成 22 年度決算の概要）

### 1. 資金収支計算書

#### (1) 収入の部

納付金収入は、学生・生徒数が前年度と比べ減少したため、予算比 72 百万円、前年度比 305 百万円減少の 3,810 百万円となりました。

手数料収入は、志願者数減少により入学検定料収入が減ったものの、センター試験手数料等その他手数料が増え、予算比、前年比同水準の 73 百万円となりました。

補助金収入は、国からの経常費補助金の増加により予算比 157 百万円、前年度比 17 百万円増加の 711 百万円となりました。

資産運用収入は、国内経済の長期低迷による預金利率の低下で、予算比では 2 百万円増加したものの、前年度比 2 百万円減少の 69 百万円となりました。

事業収入は、補助活動事業収入が予算比、前年比共に減少したものの、受託事業収入が増加し予算比 2 百万円増加、前年度比同水準の 64 百万円となりました。

雑収入は、退職金財団からの交付金収入により予算比 26 百万円の増加となったが、前年度比では 24 百万円減少の 57 百万円となりました。

前受金収入は、学生・生徒・園児の入学者数が当初見込みより減少し予算比 169 百万円減少となったが、前年度比同水準の 746 百万円となりました。

収入全体では予算比 62 百万円減少、前年度比 230 百万円減少の 4,836 百万円となりました。

#### (2) 支出の部

人件費については、教職員数は学園全体では昨年より増員があったものの、人件費総額を抑制するという基本方針のもと、金額においては予算比では 36 百万円、前年比では 90 百万円減少の 3,002 百万円となりました。

経費については、各部門における節減効果が大きく予算比 156 百万円の減少となりましたが、前年比については、教育研究経費支出が 52 百万円減少したものの、管理経費支出が 53 百万円増加となり、教育研究経費、管理経費合計で 1,229 百万円の支出となりました。

施設、設備関係支出では、大学新校舎建設関連の支出が 668 百万円となり、予算比では 82 百万円減少だったものの、前年度比では 328 百万円増加の 838 百万円となりました。

#### (3) 繰越支払資金

上記の結果、法人全体として期中の支払資金は前年度より 544 百万円減少の 6,430 百万円となりました。

### 2. 消費収支計算書

#### (1) 消費収入の部

資金収支計算書・収入の部と同様、納付金・手数料・資産運用の減少、補助金・事業収入の増加等の要因により帰属収入の合計は予算比 128 百万円増加、前年度比 315 百万円減少の 4,795 百万円となりました。

大学新校舎建設等による基本金への組入が 716 百万円あり、消費収入合計は予算比 332 百万円の増収、前年度比 675 百万円減収の 4,079 百万円となりました。

#### (2) 消費支出の部

資金収支計算書・支出の部と同様、人件費については予算比 48 百万円の減少、前年度比 59 百万円減少の 3,024 百万円となりました。経費については削減効果により予算比 154 百万円の減少となったが、前年度比では 2 百万円増加の 1,230 百万円となり、消費支出合計では予算比 200 百万円減少、前年度比 62 百万円減少の 4,744 百万円となりました。

(3) 消費収支差額等

当年度消費収支差額は予算では1,197百万円の支出超過でしたが、経費の節減と大学新校舎建設関連支出の一部が翌年度になったことにより収支見込が変わり、実績は665百万円の支出超過となり収支が改善され、翌年度繰越消費収入超過額は1,418百万円となりました。

なお、帰属収支差額は51百万円の収入超過となり引き続き健全財政を維持しました。

◆◆◆主要財務比率の経年比較表◆◆◆

	算式(×100)	H21年度 (決算)	H22年度 (決算)	前年度比	(ご参考) 全国平均※ (H21)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	60.3%	63.1%	2.8%	52.6%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{納付金}}$	74.9%	79.4%	4.5%	72.4%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	24.4%	25.3%	0.9%	30.9%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	8.9%	10.4%	1.5%	10.3%
帰属収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	94.0%	98.9%	4.9%	96.3%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	101.1%	116.3%	15.2%	110.8%
学生・生徒等納付金 比率	$\frac{\text{納付金}}{\text{帰属収入}}$	80.5%	79.5%	△1.0%	72.7%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	13.6%	14.8%	1.2%	12.9%
減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{消費支出}}$	9.9%	10.2%	0.3%	11.3%

※大学法人(医療系法人を除く)全国平均「平成22年度版 今日私学財政」より

3. 貸借対照表

(1) 資産の部

固定資産については、大学新校舎建設関連の支出を建設仮勘定として668百万円計上。また、その他の固定資産として減価償却引当特定預金が増加し、固定資産合計では604百万円の増加となりました。

流動資産の減少は、新校舎建設関連支出による現金預金の減少によるものです。以上の要因により、資産総額は前期末比28百万円増加の23,817百万円となりました。

(2) 負債の部

未払金の減少により、負債総額は前期末比23百万円減少しました。

(3) 基本金の部

大学新校舎建設等による1号基本金組入に対し、備品の過年度簿外処理分の減額もあり、全体では696百万円の純増となりました。

#### (4) 消費収支差額の部

消費収支計算書の部で述べたように、翌年度繰越消費収入超過額は、前期末比 645 百万円減少し、1,418 百万円となりました。また純資産は前期末比 51 百万円増加の 21,909 百万円となりました。

#### 4. 今後の課題

少子化の影響による収入減の中、平成 22 年度決算においては帰属収支差額 51 百万円（同比率 1.1%）を確保できた。

今後の課題としては前年比においても学生・生徒数、志願者数とも減少傾向にあり、学生・生徒等の募集をどのように行い、学生・生徒等を確保するかが喫緊の課題です。

教育の質の向上、学生サービス向上のためのハード及びソフトについての投資は引続き積極的に推進するため、財務状況の改善を目指します。

管理運営体制においては内部統制及び内部牽制の一層の強化を図ります。

学園創立 70 周年に向けて策定された「中長期計画」、及び現在策定中の「第 2 期中長期計画」に基づき、学園経営体質の更なる強化を図りながら経理執行を行い、計画の達成を推進します。



## 【資料編】

### 関西福祉科学大学

#### 1. 平成 22 年度進路状況

(単位：名)

	全体	社会福祉学部		健康福祉学部	
		社会福祉学科	臨床心理学科	健康科学科	福祉栄養学科
卒業者	631	315	123	111	82
就職希望者	538	291	72	100	75
就職決定者	524	287	65	97	75
就職決定率	97%	99%	90%	97%	100%
進学希望者	40	8	29	3	0
進学決定者	38	8	27	3	0
進学率	95%	100%	93%	100%	0%

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

#### 2. 平成 22 年度資格取得状況

(単位：名)

学部・学科・専攻科		社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	第一種衛生管理者	管理栄養士	栄養士	フードスペシャリスト	養護教諭一種免許状	栄養教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状「公民」	高等学校教諭一種免許状「福祉」	高等学校教諭一種免許状「保健」	中学校教諭一種免許状「社会」	中学校教諭一種免許状「保健」
		社会福祉学部	社会福祉学科	122	17	41							1	4	
	臨床心理学科										3			2	
健康福祉学部	健康科学科				98				85				16		13
	福祉栄養学科					48	78	56		2					
特別支援教育専攻科															8

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

関西女子短期大学

1. 平成 22 年度進路状況 (単位：名)

	全体	保育科	保健科	歯科衛生学科
卒業者	252	86	76	90
就職希望者	232	77	69	86
就職決定者	224	77	61	86
就職決定率	97%	100%	88%	100%
進学希望者	4	1	3	0
進学決定者	4	1	3	0
進学率	100%	100%	100%	0%

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

2. 平成 22 年度資格取得状況 (単位：名)

学科	歯科衛生士	保育士	幼稚園教諭二種免許状	養護教諭二種免許状	中学校教諭二種免許状「保健」	社会福祉主事任用資格
保育科	/	80	82	/	/	86
保健科	/	/	/	32	9	76
歯科衛生学科	83	/	/	/	/	90

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

関西福祉科学大学高等学校

1. 平成 22 年度進路状況 (単位：名)

	全体	特別進学 I コース	特別進学 II コース	総合進学コース
卒業者	178	13	119	46
進学希望者	169	13	114	42
進学決定者	164	13	109	42
進学率	97%	100%	96%	100%
就職希望者	9	0	5	4
就職決定者	7	0	4	3
就職決定率	78%	0	80%	75%

(平成 23 年 5 月 7 日現在)

1. 平成 22 年度進路状況

(単位:名)

	全体	理学療法学科	作業療法学科	介護福祉学科	診療情報管理学科	診療情報管理専攻科
卒業生	71	30	15	16	7	3
就職希望者	67	30	15	15	4	3
就職決定者	61	25	15	15	3	3
就職決定率	91%	83%	100%	100%	75%	100%
進学希望者	4	0	0	1	3	0
進学決定者	4	0	0	1	3	0
進学率	100%	-	-	100%	100%	-

(平成 23 年 5 月 6 日現在)

2. 平成 22 年度資格取得状況 (単位:名)

学科	理学療法士	作業療法士	介護福祉士	診療情報管理士
理学療法学科	26	/	/	/
作業療法学科	/	15	/	/
介護福祉学科	/	/	16	/
診療情報管理学科	/	/	/	/
診療情報管理専攻科	/	/	/	3

(平成 23 年 5 月 6 日現在)